

# 115 ヒノキ本数密度実験林 (小川長洞1105た・む)

試験期間 S58～ 最終調査年度 令和7年 2025年

## 1 設定の目的

ヒノキの植栽密度が、植付、保育等の経過及び、間伐、主伐時の収穫に及ぼす影響を調査し、昭和39年当地方にあった植栽本数の範囲を決定するための資料収集を目的に設定されたが、気象害等の理由により調査の継続が困難となり昭和58・59年にかけて再度設定した。

現在は生長量調査、保育作業記録等の継続と併せ、植栽本数の違いによる下層植生の推移等の観察に重点を置いた試験地として維持管理を行っている。(S58～R15)

## 2 場所等

下呂市大字小川 小川長洞国有林1105た、む林小班

機能類型等：水源涵養タイプ

## 3 面積

1105た 2.87ha プロット面積 3000本区：0.085ha、4000本区：0.079ha

1105む 3.01ha プロット面積 2000本区：0.098ha、5000本区：0.060ha

## 4 施業等の概要

【3,000本/ha, 4,000本/ha区】

時期	林齢	作業種	内容
昭和58年	1	植栽	3,000本/ha、4,000本/ha
昭和58～63年	1～6	下刈	6回下刈実施
平成5年	11	除伐	除伐
平成6年	12	枝打	枝打

【2,000本/ha, 5,000本/ha区】

時期	林齢	作業種	内容
昭和58年4月	1	植栽	2,000本/ha、5,000本/ha
昭和59～平成元年	2～7	下刈	6回下刈実施
平成2年	8	つる切り	つる切り

## 5 調査計画等

植栽の翌年から下刈完了時までには毎年、10年生以後は原則5年毎に生長量を調査し、主伐に至るまでの成長過程、形質のほか施業経過等を記録する。

## 6 地況

小班名	1105た	1105む
標高	590m～650m	550m～640m
平均林地傾斜	38度	40度
方位	北	北西
土壌型	B <sub>B</sub> (乾性褐色森林土)	B <sub>D</sub> (適潤性褐色森林土)

## 7 プロット現況

平成7年度調査

プロット	立木本数/ha	平均胸高直径(cm)	平均樹高(m)
2000本区	2,041	3.8	4.1
3000本区	2,882	4.9	4.3
4000本区	4,228	6.9	5.9
5000本区	4,983	3.7	3.9

当地方におけるヒノキの人工林は、多雪施業地帯から普通施業地帯にほとんどが属しており、いわゆる下枝を張らせ、形状比の高い丈夫な人工林とし一般用材の生産を目標にしているが、現況から3,000～4,000本前後の植栽本数が適当でないかと推察される。

平成22年度調査

プロット	立木本数/ha	平均胸高直径(cm)	平均樹高(m)
2000本区	2,000	12.3	9.9
3000本区	2,788	12.7	10.8
4000本区	4,025	13.5	13.2
5000本区	4,833	9.4	8.8

平成27年度調査

プロット	立木本数/ha	平均胸高直径(cm)	平均樹高(m)
2000本区	1,571	16.4	11.7
3000本区	1,741	17.7	13.3
4000本区	2,165	18.2	15.6
5000本区	2,667	13.1	11.1

令和2年度調査

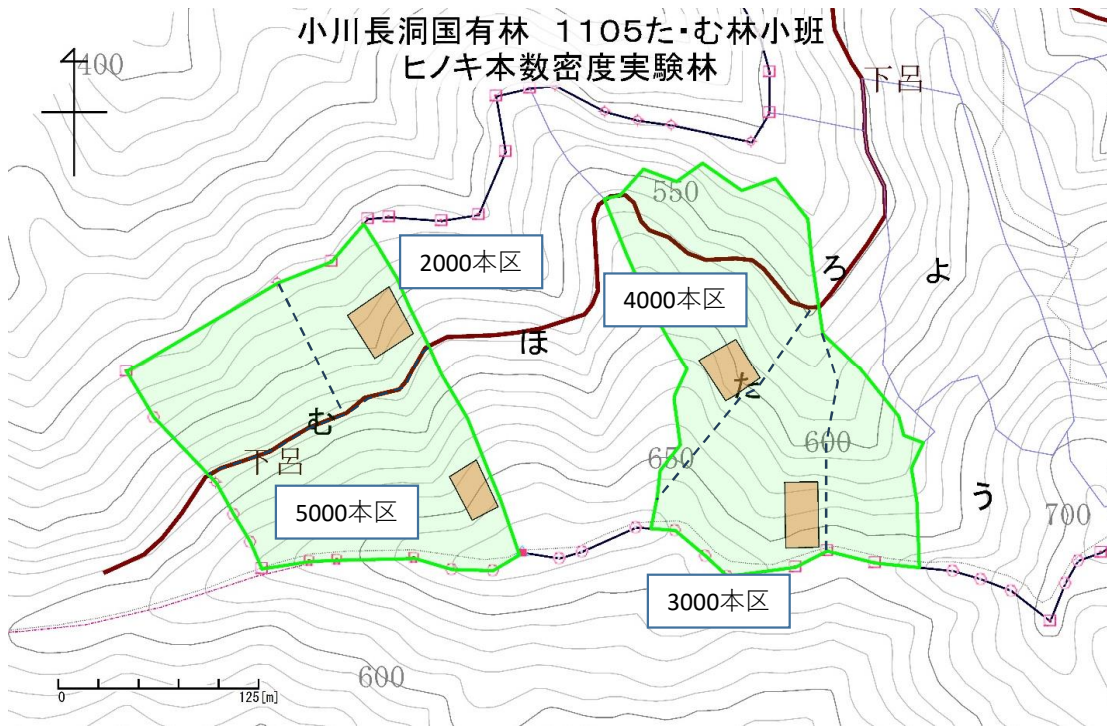
プロット	立木本数/ha	平均胸高直径(cm)	平均樹高(m)
2000本区	1,571	18.6	15.2
3000本区	1,741	19.6	14.4
4000本区	2,139	19.6	18.5
5000本区	2,667	14.7	12.3

令和7年度調査

プロット	立木本数/ha	平均胸高直径(cm)	平均樹高(m)
2000本区	1,551	20.4	15.8
3000本区	1,741	21.3	16.2
4000本区	2,101	21.3	19.6
5000本区	2,633	16.0	13.8

## 7 その他

平成7年度にヒノキ本数密度実験林（中間報告）と題して業務研究発表を行っている。  
平成12年度から、当実験林の一部を利用して、分局森林整備課が、間伐時に照度調整を検討し、表土の保全、下草植生の発達が期待される森林を育成することを目的として「下草植生の発達を良  
平成27年に「30年を超えた本数密度実験林の比較」と題して業務研究発表を行っている。



2000本区



3000本区



4000本区



5000本区

R7年11月撮影